25　明治12年における岡山のコレラ流行と木野山信仰

木下　浩
国立療養所長島愛生園歴史館 学芸員／岡山大学医学部 客員研究員

江戸末期から何度も流行を繰り返してきたコレラは，明治12年（1879）には愛媛県で発生し，全国的な大流行をもたらした．明治政府は6月に「虎列刺病予防仮規則」を制定，避病院の設置などで対応を図ったが，全国的な蔓延を防ぐことはできなかった．

岡山でもコレラは大流行し，県はその対応に苦慮した．一部の郡医会で伝染病予防や病人の取り扱いについて議論した先見的な取り組みが見られるが，5月末に児島郡と浅口郡で発生した患者は，瞬く間に県南を中心に広がっていった．県は感染したら避病院へと布達を出し，岡山市内の学校を休校にし，諸興行を差し止めた．岡山県の医会も会議を開き，コレラの蔓延に対する対応策を練った．数は多くないものの，避病院を設置する地方の町村も見られた．しかし，当時はまだコレラ菌が未発見であり，未知の病であるコレラに対し，医療や行政は有効な対策を打ち出せず，石炭酸での消毒と避病院への隔離などが限られた対策方法であった．この明治12年のコレラ大流行では，岡山県は郡別の患者と死者数を一週間ごとに克明に発表しており，この情報開示は特筆されるべきであろう．これ以降も繰り返されたコレラの流行に対し，ここまで情報を開示しているのは，この明治12年だけである．

では，庶民はコレラに対して，どのように対応していったのか．医療はまだ，無力であることは既に述べた．また，明治12年は医師開業試験が実施されて間もなくで，地方で医療にあたる医師は従来開業免許の漢方医が圧倒的多数で，コレラ対応には限りがあった．さらに県内で最大の岡山県病院は外国人医師との揉め事でコレラどころではなかったというような状況下であった．では庶民は医療に頼ろうとしたがうまくいかず，あとは神頼みするしかなかった，そんな医療ファーストで医療オンリー，医療しか有効な選択がないいわば治療弱者でしかなかったのであろうか．

岡山ではコレラが流行し始めた6月中旬，当時の地元新聞に木野山神社の神輿を担いで廻ったという記事が初見される．木野山神社は岡山県高梁市にあり，狼をご神体としている．狼が虎列刺という悪疫を広めているモノを喰い殺してくれるという発想から信仰を受け，岡山県内を中心に木野山信仰が急速に広がっていった．6月下旬以降，県内各地で木野山信仰に関する記事が見られ，その祭礼や勧請騒動でクラスターも起こっている．県はしばしば木野山神社の勧請をやめるように布達などを出しているが，それも効果はなかった．現在も県内各地に木野山神社が残されているが，近年，浅口郡里庄町の木野山神社に関する記録が発見された．そこには，既に7月初旬には集落で組織を作り，お金を集め，用意周到に木野山神社の勧請を準備する様子が記されていた．そして一旦は県の布達を理由に木野山神社の勧請を差し止められるが，それを押し切って神社を迎えている．その時の約束事を記載した議定書には「投薬ヲ以テ予防スルハ地方施政ノ為ス処ト雖モ」と記され，行政の医療政策に理解を示しながらも自分たちは木野山神社を選択するという意志が記されている．これは，決してもう頼るものが神仏しかないという受動的な選択ではなく，コレラを退治するはずの医師ですらコレラで死んでいく中，コレラに勝つためには医療ではだめだ，木野山様しかないという強い意志，庶民の医療以外の治療方法の選択が行われている．

現実的には，木野山様でコレラが収まるわけではなく，岡山県内では8月をピークに患者が減り始め，11月中旬にはコレラの流行は終息した．木野山信仰も，明治10年代のコレラの流行には引き続き信仰を受けたが，それ以降は医療の進歩や公衆衛生の浸透により信仰を失い，現在残る木野山神社もそのほとんどが由来などが失われ，「昔，疫病がはやったときに祀られた」などと伝承されているのみである．